思 想 史入門の魅力

2023年6月23日
名古屋大学全学教育棟南館3階S30号室

安 藤 隆 穂
（名古屋大学名誉教授）

あらすじ

1. 社会思想史の自己紹介
2. 水田洋と社会思想史
3. 近代的個人とマルクス主義
4. ホッブズの新解釈
5. スミスの思想史的ルネサンス
6. 近代的個人の思想史文脈
7. 先生と私
   フランス人権宣言（1789）
   コンドルセ
   教育と公共圏
8. 先生と名古屋大学
9. 晩年の先生と私
   日本とアジアの未来
10. 水田洋とともに

社会思想史の自己紹介

- 思想史的態度の成立
- 19世紀末以降：欧米
- 知的歴史の批判的反省：思想の社会的態度を問う
- （英）フェビアニズム、（仏）レジスタンス文学・哲学、（独）社会政策、（日）社会思想史（社会科学）
- 様々な思想史（理論史・今日的）
  - 哲学史
  - 法思想史
  - 経済思想史
  - 文学史
  - 社会学史
  - 教育思想史
  - 科学思想史

- 社会思想史：歴史・具体的・媒介的思想研究
  - ＊社会思想の歴史　＋（！）
  - ＊思想の社会的態度を問う
- 思想と（社会）諸科学
- 社会運動史
- 民衆思想史
- 社会史
- 宗教史
- 心性史

思想史的態度の成立と歴史的環境
E.ホブズボーム（『20世紀の歴史』より）

- 長い19世紀（1789-1914）
- 1789年フランス革命～
- 1914年第一次世界大戦

- 啓蒙、理性、進歩の時代
- 科学と産業、資本主義
- 自由主義、民主主義
- ヨーロッパ中心主義
- 世界の文明化
- 文明（キリスト教）と
- 未開、野蛮

- 短い20世紀（1914-91）
- 31年戦争（第一次、第二次世界大戦）
- 欧米自由主義と民主主義の危機：帝国主義
- ロシア：ソヴィエト社会主義共和国連邦
- 独：ナチズム
- 伊、日本：ファシズム
- 冷戦体制の成立と崩壊
- 1991年ソ連崩壊

社会思想史の方法

- 社会思想史は歴史・具体的・媒介的に思想を問う
- 歴史と人間
  人間と自然（労働）
  人間と社会（諸関係）
  意識と言葉の再生産
- 思想の社会的態度を問う
- 思想の存在を問う
- 歴史と社会に生きる
- 人間＝個人の思想
- 思想の歴史的存在を生き直す→自己と今生きる場の再認識

社会思想史概要
水田洋『新稿社会思想小史』（2006年）

I　社会思想とは何か
II　古代
III　中世
IV　ルネサンスと宗教改革
V　市民社会の成立
VI　資本主義と階級対立
VII　後進国の近代化
VIII　資本主義と社会主義
IX　資本主義社会の成熟
X　帝国主義と世紀末
XI　戦間期の思想
XII　戦後思想の諸潮流

- 現代人（個人）による現代の自己認識

水田洋（１９１９－２０２３）
社会思想史の樹立

- 1919年生まれ、東京府立第一中学校（現日比谷高校）を第4学年修了で東京商科大学（現一橋大学）予科に進学、1941年12月に繰り上げ卒業。
- 1942年東亜研究所に就職、続いて、大日本帝国陸軍軍属となり、南方軍第16軍（ジャワ軍政監部）調査室で農村調査に従事し、敗戦時にはスラウェシ島で8ヶ月の捕虜生活を通訳として過ごし、復員後、1946年東京商科大学特別研究生となる。
- 1949年名古屋大学法経学部助教授に就任、1954-56年グラーズゴウ大学留学、1958年名古屋大学経済学部教授、1983年名古屋大学定年退職、1983-94年名城大学商学部教授、1998年12月より日本学士院会員。
- 2001年18世紀スコットランド学会表彰
- 名古屋大学水田文庫、浙江大学文庫

水田洋　主要著作

- 『社会思想小史』中教出版、1951年
- 『近代人の形成—近代社会観成立史』東京大学出版会、1954年
- 『アダム・スミス研究入門』未來社、1954年
- 『社会主義思想史』（水田珠枝と共著）東洋経済新報社、1958年
- 『社会思想史概論』（高島善哉、平田清明と共著）岩波書店、1962年
- 『マルクス主義入門—この思想の流れを創造した人びと』光文社、1966年
- 『アダム・スミス研究』未來社、1968年
- 『社会科学のすすめ』講談社現代新書、1969年
- 『社会科学の考え方—人間・知識・社会』講談社現代新書、1975年
- 『ある精神の軌跡』東洋経済新報社、1978年
- 『自由主義の夜明け—アダム・スミス伝』国土社、1979年
- （『アダム・スミス—自由主義とは何か』講談社学術文庫、1997年）
- Adam Smith's library. A catalogue, edited with an introduction and notes by Hiroshi Mizuta, Oxford:Clarendon Press, New York:Oxford University Press, 2000.
- 『思想の国際転位—比較思想史的研究』名古屋大学出版会、2000年
- 『新稿社会思想小史』ミネルヴァ書房、2006年
- 『アダム・スミス論集』ミネルヴァ書房、2009年

関連年表

- 1914
- 1917
- 1923関東大震災
- 1925治安維持法
- 1929
- 1931満州事変
- 1933国際連盟脱退
- 1936　2.26事件
- 1937日中戦争
- 1939
- 1941太平洋戦争
- 1945敗戦

- 1914-18第一次世界大戦
- 1917ロシア革命
- 1929世界恐慌
- 1939-45第二次世界大戦

水田洋：戦争の時代と思想史への道

- 近代的個人の目覚め:「考える葦」の誕生、
- 東京商科大学(現一橋大学)予科に進学、1941年12月に繰り上げ卒業。
- 日本の近代と資本主義の特質
- 日本資本主義論争と講座派:封建的遺制による資本主義と帝国主義のゆがみを批判
- 二つの革命:民主主義、社会主義
- 革命の閉塞の中に孤立する個人
- 自我の目覚め:社会的存在への問い
- 文学
- 社会認識と実践
- 社会科学
- 「文学は社会科学への過程」(自己沈潜への警戒)

水田洋：青年学生と思想史の懐胎
思想の歴史的社会的態度を問うという方法意識

- 近代的個人の思想史
- ルネサンス崩壊期とマキャベッリ『君主論』
- ホッブズ『リヴァイアサン』：近代的個人の誕生
- スミス：近代社会の中の近代的個人
- 卒論「生成期国民国家の思想史的研究」

- マルクス主義を思想史の対象
- 近代的個人の思想史を組み込む
- マキャベッリ『君主論』からホッブズ『リヴァイアサン』へ
- ルネサンスと古代の崩壊期の比較
- CF.羽仁五郎

近代史年表

《表》

世界経済システム/主権国家連合

イギリス市民革命1642－

ウエストファリア条約1648

文芸共和国→公共圏

イギリス産業革命

フランス革命1789－

ナポレオン帝政1804－

フランス産業革命

1830年、1848年諸革命

市場、近代国家、科学技術、公共圏

《裏》

搾取・貧困/収奪・戦争

三角貿易／東西インド会社（イギリス1600－）

スペイン継承戦争（1701-13）

オーストリア継承戦争（1740-48）

リスボン大地震（1755.11.1）

7年戦争（1756-63）

アメリカ独立宣言1776

ナポレオン戦争（1804-15）

恐慌（1825,36,47,68）

戦争、革命、災害、排除と貧困

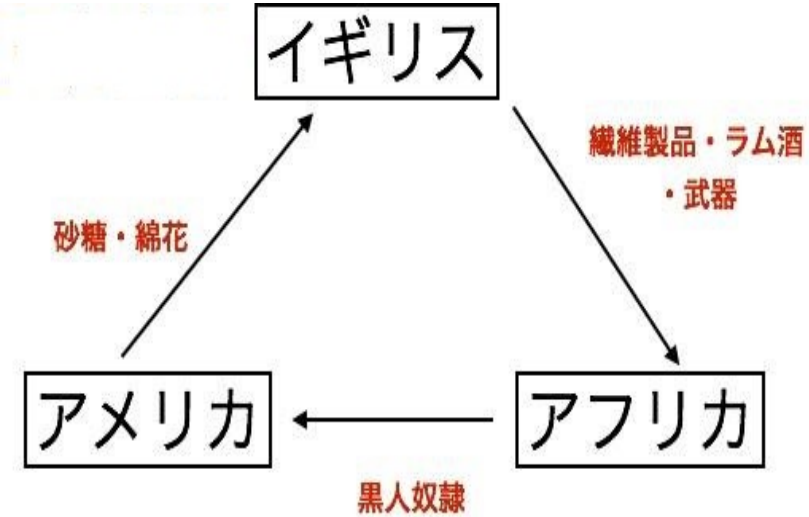
近代の開始:主権の世界分割
1648年ウエストファリア条約

30年戦争(1618－48)

ジャック＝カロ『戦争の惨禍と不幸』

近代:人間と市民の時代
世界経済：主権：公共圏

世界経済システム：商業社会
三角貿易（土地⇒商品）



自由の権利・愚行権・基本的人権

公共圏

1648年ウエストファリア条約
主権システム

著作権の都合により
この画像を削除しました

1740年代地図

国家：**主権**

市民：社会

『近代人の形成』（1954年）ホッブズの新研究

- 「人間を動かすものは自分の生命を守ろうとする自己保存の欲求と、他者をしのごうとする虚栄心である」⇒「破滅的な闘争状態」⇒契約による同一共同の法と権力への服従（山川『倫理』）
- ホッブズの再解釈
- 自己保存権はすべてに先立つ自然権である
（　CF.日本国憲法第13条）

- 国家を作り出す論理の理解以上に
- 自己保存権の絶対性の確認が大切
- 利己心の制御は個人自身が行う
- 虚栄心は社会意識である

スミス再創造：『道徳感情論』（1759）復権
ホッブズ・スミス・マルクスの近代的個人文脈

- 「一人ひとりの個人の利益を追求する自由な経済活動が、『見えざる手』に導かれて産業を活性化し、社会全体の富を増やす」「相手の動きを観察する競争者たちが、たがいに対して公平な観察者となり、競争が公平に行われているかをチェックする（フェア=プレイの精神）」（山川『倫理』）
- 『国富論』（1776）と『道徳感情論』
- 自由競争と見えない手
- 同感論の道徳哲学

- 「アダム・スミス問題」の再措定
- 観察者の同感から
  行為者の自己規制へ
- ホッブズ問題の回帰
- 平等とスミス
- 資本主義批判と社会主義
- 近代的個人が結ぶ

先生と私：フランスとスミス　1789年フランス「人間および市民の諸権利の宣言」

８９年宣言

『ベルサイユのばら』

「©池田理代子プロダクション」
池田理代子「ベルサイユのばら」週刊マーガレット（集英社）

「宣言」の構造化
個人・社会・国家

自由平等な社会的個人

社会的分業の中の個人

「国民が存続しかつ栄えるには何が必要であろうか。それは個人的労働と、公職である。」（シェイエス）

個人＝（商品）所有者

土地・資本・労働（力）

社会的分業

生産⇒交換⇒消費（＝生産）

自己統治と政治

共和国による富の再配分

市民の代表制

公共圏による規制

個人⇔主権⇔国家

人間（個人）:社会／公共圏・市民↔主権／国家

自由な個人：商業社会

私有財産（**家族**）：**教養**

市民的公共性

社会的ネットワーク・メディア

グーテンベルクの銀河系

カフェ、サロン、

通信、ジャーナリズム、

アカデミー、大学

議論＝理性の対話

⇒**公論**

↓

政治を規制

↓

主権在民＝市民革命

市民＝主権者

主権の作り直し

↓

国家

「宣言」の構造化
ジャコバンの物語

主権の位相

人間（個人）が先か市民が先か

知識か徳か

シエース

人間が市民に先行:

社会的分業の中の個人

理性的議会(知識)による共和主義：市民

⇒科学と学問による合理的統治と制度設計

ロベスピエール

市民が人間に先行

社会的分業の不平等

徳の公共圏と共和主義：

愛国心と道徳教育：市民

⇒商品経済と法的形式的平等の結合：人間

テルミドール派自由主義の経験
自由・代議制・独裁

代議制共和国の設計

商品経済の自由

民衆⇒受動市民

可処分層⇒能動市民

能動市民の代議制

公教育

労働技術教育

高度専門人教育

政治的不安定

クーデタと軍人化

公共圏の再生

世論の導入

国民投票

皇帝ナポレオン誕生

何が起きたのか？
代表制の機能不全

市民的公共性の成立	公共性の変質（解体）
公共性（公共圏）：公論	Popular　Sentimentsへ
17－18世紀	19世紀以降
公開討論・公論による合意の政治秩序	感情による集合・世論による政治秩序
真偽判断	美醜（好悪）基準
参入条件「財産と教養」	参入条件「言語と国籍」
代議制度	代議制度の腐敗

コンドルセとともに（近代の両義性を生きる）

コンドルセ1743-94

コンドルセ夫人1764-1822

CONDORCET,1743-94

1743 ピカルディ貴族の子

1768フランス科学アカデミー会員

（数学）

1789フランス革命

1791立法議会議員

1792国民公会議員

1792ジロンド派「教育計画」提案

（公教育委員長）

1793ジロンド憲法草案／死刑判決

1794獄中で自殺

遺著『人間精神進歩史』

1774-76チュルゴ財務総監の改革：

造幣局長官

1776アメリカ独立宣言

アダム・スミス『国富論』

自治体論、共和主義、道徳哲学

1789年協会と黒人友の会

1781『黒人奴隷に関する考察』

1790-92『公人叢書』

『国富論解説』

『公教育についての5つの覚書』

1798ソフィー・コンドルセ

『道徳感情論』フランス訳

コンドルセの自由社会の探求
研究の現場：文献の光

発見：『公人叢書』（1790-92）

探索：コンドルセの『国富論』解説はどこに行った？

第3-4巻『国富論解説』（1791）

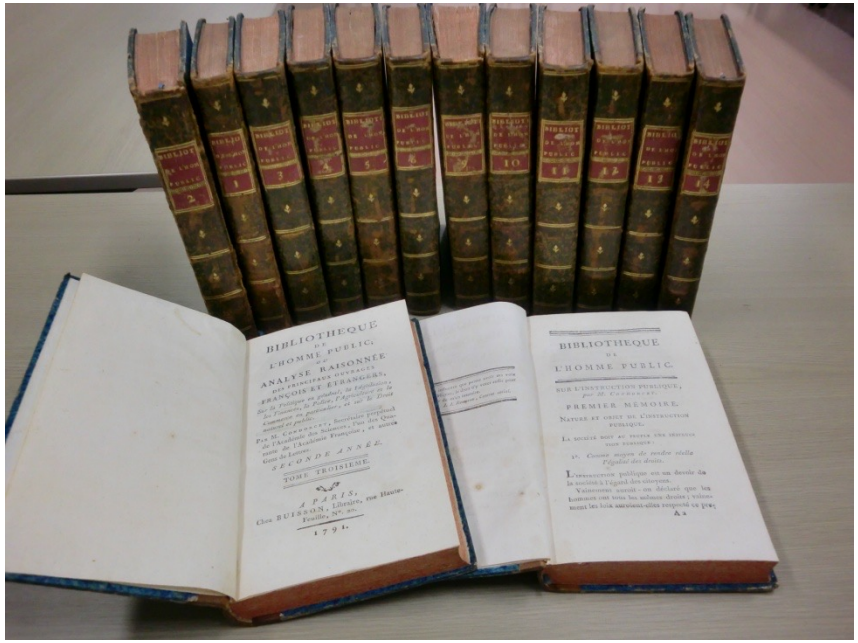
第5-6巻『公教育に関する5つの覚書』（1791）

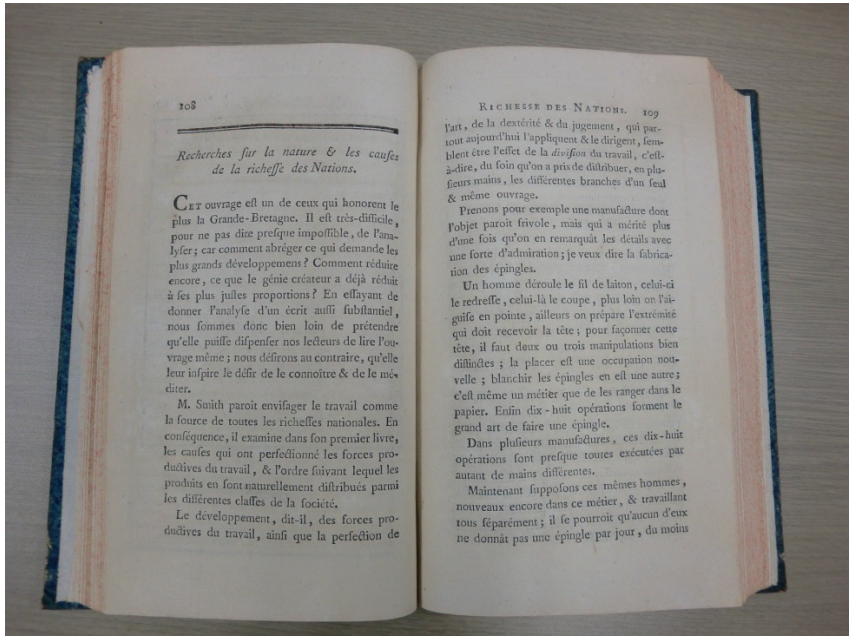
ルーシエ訳『国富論』（1790-91）に続巻として予告（刊行されず）

仮説と論証

見えない神の手⇒公教育・公共圏（社会化）

『公人叢書』全14冊（28巻）
1790-92





コンドルセの公教育

古代：奴隷＝労働
　　市民＝徳の政治
近代：人間＝市民
　　個人:労働／社会
　　市民：政治／代表

権利としての公教育(無償)
　教育は社会の義務

権力からの完全独立

公教育を知育（INSTRUCTION）に限定

訓育（EDUCATION）の自律

教育の課題
　勤労の力を養う
　　専門人:科学と技術
　社会的技術(教養)
　　分業の弊害を克服
　　市民のモラルの誕生
原理と組織(教室)
　知恵：個人の独立⇒公共圏
　男女共学:偏見の打破
　討論の真理・価値の自由

アダム・スミスとコンドルセ
フランス自由主義の成立

スミス（『国富論』）の世界
（「商業社会」）

・自由な財産にもとずく勤労＝分業
・自由放任と見えない（神）の手による秩序（予定調和）

・近代社会成立の諸条件を探求
（自由競争のモラル・観察者と同感）
・（資本主義制度・経済学）

コンドルセの公共圏（『国富論』と『道徳感情論』解釈）と自由主義

・公教育
・公共空間
・言論圏
・政治的自由

・**近代的個人が市民となる方法**の探求
・代議制民主主義（自由共和国）

水田洋と名古屋大学の学問

- 長谷川正安、水田洋、竹内良知『近代社会観の解明』（1952年）
- 坂田昌一『科学に新しい風を』（1966年）を書評

- 名古屋大学高等研究院アカデミー会員（2012-）
- 名古屋大学レクチャー
- 名古屋大学水田文庫
- ジェンダーリサーチライブラリー
- 浙江大学水田文庫

晩年の水田先生と私：日本とアジアの未来

中国との交流

　南京大学

　浙江大学

台湾との交流

　台湾大学

　高等研究院研究交流

黄俊傑、安藤隆穂編『東亜思想交流史中的脈絡性轉換』（2022年）